明治廿八年九月四日印刷
明治廿八年九月六日發行

婦人衛生雜誌

第七十號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌 第七拾號 目次

講演

◉病氣と妄念との關係　醫學士　金杉英五郎君

◉肺結核に就て

◉生理學講義　醫學士　坪井次郎君

衛生叢談

◉北里博士の血精療法

◉全國虎列剌病患者

◉十九年と今年の虎列剌病比較

◉飲食物の心得

◉小兒授乳の程度

◉府下の虎列剌病患者

◉婦人衛生會々告

◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌 第六拾九號 目次

講演

◉遺傳に就て　醫學士　三浦謹之助君

◉虎列剌病豫防策（前號の續）

衛生叢談

◉虎列剌病流行時の注意

◉虎列剌豫防いろは歌

◉海水浴場救難取締注意

◉緒方博士の一大發明

◉明治十年後の傳染病數

◉虎列剌週報

◉虎列剌の發生日

◉コレラ病接種

◉蠅の害

◉避病院の新開

◉臺灣島の脚氣病

◉蛸の賣買禁止

◉古郵券集聚の危險

◉陸軍轉地療養所を開かる

◉大日本婦人衛生會景況

◉廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第七拾號
（明治二十八年九月六日發行）

講演

●病氣と妄念の關係

（七月六日於華族會館婦人衛生會例會）

ドクトル　金杉英五郎君　演說

佃速記事務所員　速記

私は今日何か專門の事に就て、御話を申上げたいと思つて居りましたが、生憎よき種も御座いませなんだ故、病者一般に關した詰らぬ事を御話致して、御免を蒙ることに致します。其御話を申しますする事は、『病氣と妄念の關係と』いふ題で、病氣になりましたる人が、妄に物を考へて心配するは如何に害ありやと云ふ事を御話仕様と思ひます。此事は私が申上ぐるまでもなく、極く一般に解り切つた事でありますけれども、大勢懸つて御姫様の支度をして、悉皆出來上つた其着物の袂にも糸屑が附いて居る事も御座いますから、若し私の申上げました事も、幾分か御爲めになりますれば幸福の事で有ます。

扨て諺に氣から病の出るといふことが御座います。氣から病の出ると云ふことは日本ばかりでなく、西洋でも何處でも俗間にまでも言ひ傳へる言葉で有ります。此言葉を以て觀ましても、病氣と精神感動即ち妄念といふものは非常に大なる關係を持つて居るのであると云ふ事が解ります。例へて申しませうならば、我々が平生實驗致す處の事で、殊に私が先年實驗しましたる一例を擧げ

ますれば、或處の奧樣が非常に神經家であつたが折から丁度虎列剌の流行時でありましたが、此奧樣は非常に虎列剌が嫌ひで……勿論虎列剌の好きな人も有りませぬが、此人は途中で巡査を看ても嫌なほど虎列剌が嫌ひで、虎列剌病の流行する夏には非常に怖がつて居りました。ソレ故食物其他の事まで非常に氣を附けまして、肉類其他種々の果物なども平生食べるものも成るべく食べぬうにして居りました、然るに困つたことに或時困つた事に少し斗りの攪亂を起しました、其際醫師が種々に手當をいたしましたれども、非常に氣落をした爲めに遂に殪れて仕舞つたといふ樣な事が有る前に申した通り此奧樣は衛生上其他には充分氣を附けて居りましても精神感動の烈しい時は却つて病氣を惹起しまして、遂に救ふべからざるに到るので有ります。又一例を擧げて見ますると、此頃私の處に非常に聲を嗄らして來た一人の奧樣が有つた、而して私は非常に咽喉が惡るい、既に咽喉が詰りさうだ、息が止つて死にさうだト云ふことであつた。ソレから仔細に咽喉を撿査しましたけれども少しも咽喉には故障が無い、聲の枯れるだけの原因が無い、故に是れはヒステリ性の聲の嗄れたので有ると云ふ考へで、喉頭に蒸溜水を附けて、是れを附けると直ぐに療る筈だといつて後で聲を出させたら、誠に清涼ある音聲を發ッした。是等は皆精神感動の過度なるもの、精神感動の過度なるが、爲めに、病氣を造り出だすもので有ります。斯くの如く神精感動の過度なるもの即ち忘念と云ふものは、病氣を起しまする事に非常の關係を持つて居るものであります。況して一度

病氣に罹りました者即ち病者は精神感動の如何に因りまして疾く癒るべきものも長く罹り、或は治るべきものも死地に陷ると云ふ樣な事が澤山在るので御座います、例へて申せば今回の戰爭などでも、我日本帝國が連戰連勝で有ると云ふ報知を傳へました處が、數千の病兵が俄かに褥を離れ或は又良夫の無事歸朝されましたのを看まして、危篤であつた處の奥樣が急に床上げをすると云ふ樣な例が澤山有ります。是等の例を看まして、實に病氣にありました者と精神感動の過度なる者、即ち妄念と云ふものとは、大いなる關係を持つて居ると云ふことを深く考へねばなりません。是等の關係は男子に於きまするのと、女子に於きまするのと孰れが多いかと申しまするに、申上ぐるまでもなく、男子よりは女子の方が神經質の者か多い事になつて居りまするからして、從つて是等の關係は男子に比較しますると女子の方が非常に多い。ソレ故に今日私は極く手短かに、病氣に罹つて居ります人の妄念を起します狀態を御話仕やうと思ふので有ります。若し御姫樣の御召物の袂に附いて居つた糸屑のやうな關係にありまする事あれば、幸甚で御座います。

抑々妄念と申しまする物、即ち精神感動の過度なるものとはドンナ有樣を申すかなれば、先づ大體を申して見ますれば既に過ぎ去りました事、或は又茲に出て來ない事、即ち過去未來の事どもを頻りに心配し、或は看病人の善惡を咎め朋友や知己の人々が無沙汰に打過ぎて居る事を怨みましたり、或は自分が此世の中に爲したる事は誠に益もなき詰らぬ事であつたと云ふ事、即ち名聞を此世

の中に逐ぐる事が出來なかつた事などを頻りに患ひましたり、或は私は死んでから後は、若しも地獄に往つたらドンナ苦みをするで有らうと云ことを恐れ或は自分の郷里の事を思ひ出して、ドウして私には羽根が生えないだらうと云樣な事を怒ります……まさか其程に怒る者もないが、山をかけて大きく申上ぐるのです。其から水天宮樣に御參詣をしても、ドウも私の念ひ通りには願ひを叶へて呉れぬとか云やうに、過去未來現在の總ての事を考へまして、斷えず自分の腦を勞らして居る、殆ど少しでも休む時なく腦を苦めて居ります。ソレが先妄念の大體の定義で有ります、其妄念有病人が目を閉ぢ塞いで居り苦めまする處は、如何にも物靜かなる容子で有りますが恰も日清戰爭の眞最中の樣でありまするし、且又水責め火責めに遇ふて居るやうな有樣で有ます。是等の有樣を例へて申しませうなれば、先づ病氣は一尺あるとすれば、其妄念の有ります處の病人は、一丈位いの物思ひをして居るので有ます、此妄念と云ものは病人に取りまして、ドンナ害が有るかと申しまするに、病人がいたく物思ひを致しまする時には、唯今申上ました通り頻りに腦を刺戟する人間の身體の中で最も必要ある腦を刺戟致しまする爲めに、腦より支配して居る處のからだ中の器械が傷んで來。例之ば肺が惡くなるとか、心臟が惡くなるとか、腦が惡くあるとか云樣に、腦は郵便の本局故本局に間違ひが有ます時は、支局即ち諸部の器械が一樣に傷みを生じて來る。而して諸部の器械に傷みを生じますのは、元腦より起つたので有ますが、遂に其が各固有の病とあります。加ふるに

本局たる腦に狂ひが有るのでありまするから、益々病を強めて參りまして、如何様なる名醫がドのやうなる神藥を調劑しましても、些かも効を奏しませぬ。効を奏せざるのみならず始め一尺の病でありたものは漸々募りに募つて遂に十丈位ゐの病になると云ふやうなことになりまして、其結局はドウかと云ふに、生命も保ち難いやうに立ち到るので有ります。斯くの如く妄念といふものは病人に取りまして甚だ障碍を爲すもので有ります。極く〳〵小さい病も、妄念と云ふ奴が手傳ひますと終に物にして仕舞う……物にして仕舞うと云ふのは殪れて仕舞うと云ふことです。ソレ故に妄念の打勝つて居る病氣の人の死にまするのは、病の爲めに殺さるゝよりは、寧ろ妄念の爲めに打殺されます方が多いので有ります、則ち妄念に食ひ殺されるので有ります。ソレで禪學坊主も申した事が有ります、即ち妄念と云ふものは虎や狼より恐ろしいものである。何故なれば虎や狼は戸を立てゝ塞さ、垣を結ひました中へは這入ることは出來ないものである。けれども妄念と云ふものは座禪をして居る極く嚴かな靜かな床の上にまでも襲ふて來る奴、即ち座禪靜慮の床の上にまでも往き、ソレから七條九條の袈裟の中にも這入つて來る者ありと是れは能く穿ッた言で、誠に其通りで有ります。虎や狼は戸閉したる家の中にまでは這入ッて來ませぬが、妄念は何處までも這入り込む奴で有る、貧しき人でも、富みたる人でも、貴き人でも賤き人でも差別なく取附く、東京はよくないからといつて、伊香保、大磯、鎌倉等に出掛けても矢張り妄念は何處までも附いて來る、東京は土地

が悪いから、熱海に轉地をすると、安念は忽に這入るか懐中に這入るか知らむが、必ず一所に附いて往く。貴賤上下の區別なく土地住所に拘らず何處までも附いて居つて誠に恐るべきものである、實に禪學坊主の云つた言葉は、簡單にして能く盡した言葉で有ります。

又過度の精神感動即ち安念といふものは、病人にあつて居りまする處の者に、非常に關係致しますると云ふ事は前に申述べましたので略ぼ解ッては居りますが、何の醫書を讀みましても、療法の箇條、即ち醫師が治療を致しまする其箇條に、先づ第一に擧げてゐるのは、精神の感動を避けしむると云ふことでわります。此精神の感動を避くると云ふ言葉が一番先きに書いてゐるのを看ましても、精神感動の過度なるものゝ、病氣に害を爲すと云ふことは解り切つた事で有りますから、我々が一度病に罹りましても、極く宜いところの經過を取つて速に全快仕やうと考へるならば先づ第一に精神の感動即ち安念と云ふものに打勝たねばならぬと思ふ此精神の感動即ち安念に打勝つ事が深切ある看護婦、立派な醫師の治療、効能ある藥を服するよりは、尚ほ大切なる事でありまして、一時も病人に取りまして油斷のならぬのは此安念で有ります。昔から物事に頓着しない人は重い病氣に罹つても直ぐに療る、又物に頓着しない人は長壽するといふのは、取りも直さず安念と云ふものに打勝つのでありまして、何にも外に理屈の有る譯ではない。ソレで今更私が申述べる迄もなく物に頓着しない人は病氣に罹つても直きに快くなる或は長壽をすると云ふやうな者は、皆安念に打勝

ちまする處の人である、物事に頓着しないと云ふことは、ドウ云ふ處から來たかと云ふに頓着しない人の定義は極く簡單のものである。則ち吉凶榮辱逆緣順緣などゝ云ふことを差別しない、吉凶は善い事や惡い事、榮辱は自分名譽や、若くは人より辱めらるゝと云ふやうなことに頓着しない、拘はらないと云ふのが物に頓着をしない人と申すのであります。其吉凶榮辱逆緣順緣などゝ云ふことが、皆自分の氣力を助くる加勢となる故に、善いといつても驚かない、惡いと云つても悲まない、今日二等勳章を賜つても左程驚きもせず、自分は一等勳章を戴く筈だに賜はらぬからとて歎息もしない。己れはモウ少し好い嫁を貰ふ積りであつたが、格別サウモ往かない、己れは立派な處の敎師になる約束であつたが、ソレも甘く往かぬと云ふやうな事なども思はず、唯自分の分を守り一心職に務めて居るのが物に頓着しない人と云ふのである。是れは鳥渡考へると、如何にも茫然として居るやうであるが、極く源を正して見ますると、妄念に打勝つて居る大へんに豪い人、譬へば之を反對から云ふと、妄念家が前に述べるやうな場合に遇ッたらソレこそ大へんです。妄念家は少しばかりの事、例せば財布を一つ落したと云ふ樣な事でも、中に大事な書付が有りはしないかと云つて非常に心配をする、芥子粒程の些細な病氣にも夥多しく考へて、いや是れは前世の祟りで有らう、神佛にも見離されたので有らうと云ふ樣に一寸した事をいろ／＼に深く考へて、見離しもしない神佛を、此方から見離すやうなことを思つたり、或は又種々に道理を附けて自分の身に罪も無いのに頻り

に責める。而して芥子粒程の病氣を漸々に育て上げまして、遂に奈良の大佛樣位ゐに育てると云ふやうな工合で果は自分の身も危いやうな事に達するので有ります。

先づ物に頓着しない人と妄念を起す人との差は、ソンナものでありまして、大体から看ますると、却つて一方は愚鈍の樣であり、一方は餘程物事に鋭敏なる樣でありますか、識者の眼より觀れば、全く反對で有ります。然らばドウしたら妄念が無くなるかと云ふに、勿論此邊に御出でになります御方には決して爾う云ふことは有りませぬが、若しサウ云ふ人があつたならば、妄念は無くさなければならぬと云ふ事は充分說き聽かせまするが、亦國家に對する一つの忠義で有らうと考へる。若し人が病氣に罹りました時は、先づ仙人となつて、山に入り込んだときと考へるのが一番に宜しいと思ひます。今日は頭痛がする、熱が三十八度何分になつた（尾陋なことながら）下痢がする、咳嗽が出る、痰に血が混ると云ふやうな事があつたら私は今日仙人になつたので在る……と斯う考へるのが簡單で必要の事で有らうと考へる。而して一切の事を打棄て仕舞う、仙人ならば一切何事も打棄てゝしまうと云ふのは容易いことでありますし、殊に少しも差支ない。例之ば奧樣方で申しませうなれば、御自分の良人の起居進退等にも少しも構いない、少しく不深切の樣ではあるが、兎に角山に這入つて居る仙女故、一向無頓着で宜しい。良人が何處かへ出掛けるときにも、着物を出さないでも宜い、手足のある人なら一々世話をして貰はんでも大抵獨でも出來る筈、若し出來ぬなら

ば、御女中も有り御家來も有る、奥樣は仙女だから構ふには及ばぬ。又良人が遲く歸へられても構はない、何時歸つて來やうが少しも頓着しない、何か用が有つて夜十二時過ぎにもなり又三時にもなつたので有らうと考へて居れば宜い。ソレから小兒などに就ても同じ事、常なれば學校に往くには誰れを附けて遣らなければ往かぬと云ふやうな事から、車の指示、御辨當の御菜まで世話を燒たものであるが仙人になつたら打棄つて置く、サウすると家來でも女中でも、或場合には手足がわらば御良人でも世話をして出して仕舞ふから、少しも心配するに及ばぬ。斯う云ふ風に一切の世話から家事向きの用事、若くは自分の病氣の熱が有るとか、痰に血が混るとか下痢をするとか嘔氣が有るとか云ふやうな事は、仙人ですから少しも意に介さないで、傍らの人及び醫師に一切打任せて仕まつて安心して居るが宜い、此横着なる方法、即ち仙人となつた方法が、病の勢を縮める處の極く良い方法で御座います。若し皆樣方が此方法を守らずに矢張り妄念家の方に這入つたならば、一日で療るべき病は十日も經過し、一月の病氣は二月も三月も經過り、助るべきは殪れて仕舞ふと云ふやうなことになる。之に反對に、所謂仙人の方法を守りさへすれば、二月も三月も經過すべき程の病勢も十日で療り、一年も懸るものは二月で療ると云ふ大關係が有ります。總べて一家の幸福なるも幸福ならざるも之に由來し、會計上總べての關係も非常に違つて來る。若し不幸にして妄念家が益々病氣が殖つて參りますると、妄念も從つて高まつて來まして、何時でも十時に歸つて來らるゝ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

御良人が十二時一時までも歸られないやうなことでもあると、是は何かありさうな事だと云ふやうな考へを起して、おつうソレから先きいろ〳〵の考へを起し、過去の事未來の事、有る事も無い事も種々樣々に考へを起す、サウすると病氣は喜んで育ち、終には御目出度なる……と斯う云ふ譯であります。

先づ下らぬ事は措きまして、以上述べました處の事は、信に妄念家の一二例に過ぎざる事で有りますけれども、妄念家が病氣になつて、而して其處に現し來たしまする處の狀態を極簡單に說いた積りで有ります。何卒皆樣方も斯う云ふ妄念家が病氣になりましたのを御覽になりましたならば、熟く御說き聽かせ下さいまして、而して死活の戰爭に勝つやうにしなければならぬと思ひます。私は妄念家の爲めに箇條別をして說き示す口上を爰に申上げます。

第一に人一度疾病に罹るときは仙人となり深山幽谷に捿息するの時と考ふべし、吉凶榮辱逆緣順緣少しも介意すべからず、則ち妄念の襲來を防ぐべし。

人が一度病に罹りましたときは、深山幽谷に在る時と考へるが宜しい即ち吉凶榮辱逆緣順緣等は少しも考へるに及ばぬ是れが妄念の襲ひ來たるのを防ぐ方法です

第二病狀及び藥物飮食物は傍人と醫師に打任せて悠々然たるべし。

飮食物などの事は醫師と傍らの人に打任せて自分は悠々然として居るが宜しい。

第三病者の物思ひは韶陽魚の齒ぎしりたる事を忘るべからす。

病氣になりました人がいろ〳〵考へても何の効も無い、ソレ故に病氣が彼是と物思ひ

をするのは、詔陽魚の齒ぎしりであると云ふことを忘れてはいけない。

第四喜怒哀樂の感情激烈ならざるやう熟練すべし。怒つたり哀むのは無論惡るい事ですが、喜ぶのも樂むのも余り極端に喜び、極端に樂しみますのは宜しくない、併ながら甚だ失禮ですが、感情が頂上まで上らなければならぬと云ふのが女子の性質で有りますから、喜怒哀樂の感情が余り激烈に發しないやうに熟練しなければならぬ。是れは妄念の襲ひ來たるに打勝つ方法で、矢張り妄念を防ぐので有ります。

第五生も夢幻死も亦夢幻たる事を信ずべし。佛家の申します通り……私は無暗に佛家の言を引き出しますが、坊様でもなんでもないのですから一寸申上置ます……ソレで佛家の申しましたる生も夢である死も亦夢であると云ふことを信じて、死ぬのも夢であるが又斯うして生きて居るのも夢のやうなものであると云ふことを考へて居るが宜い爾う思つて居ると、生死が苦にならない。私が死んだら子供が後で困るだらうなど丶思はずに、私の生れたのも夢故、子供の生れたのも夢で有らう、人間は夢と夢が諸處に聚つたのだから、假令死んでも、ソレも矢張り夢だと思ふて生死を心に止めぬが宜い、ソレが即ち妄念の襲來を防ぐ方法で有ります。

今日は眞に詰らぬ事を御話いたしましたが、貴婦人方から妄念家に御說き示しになつて、幾らか御爲めになると云ふやうな事なれば、私も大へんに嬉しく思ひます。貴婦人方には決して此箇條を御守り下さいとは申さない、何故なれば貴婦人方は

決して妄念家で無い、唯斯うして夢が集つて、一つの夢が御話をして居るだけの事で御座いますと御聽流しを願い升。

●肺結核に就て

本篇は醫學博士北里柴三郎君の大日本教育會の常集會に於て講演せられたるものなり有益なるか故に今全會に請ひ轉載することゝはなしぬ

(前略)多數の病氣の中で殊に壯年の人の一番餘計に侵さるゝ處の者は先づ肺結核の右に出つる病氣はないと云てよい位に多い病氣ソウして此肺結核と云ものは獨り日本のみに非ず全世界に蔓延している病氣で御座います病氣によりましては處々に限りて或る縣ては大變多かつたり或國ては少なかつたりするのが通例でござります夫は一般の病氣のみならず傳染病も又同じことで御座りますけれとも獨り肺結核其他外にも御座りますけれとも肺結核に於ては全世界どんな寒い國に往きましてもどんな暖かい國に位きましても中等の氣候の國に往きましても平均して大變多い病氣て御座ります殊に日本ては近年最も多いように見ゑて來ました決して何處の國ても近年に至て肺結核が酷く増したと云ふ譯のものではござりませぬけれとも是迄は果して肺結核か又は肺の他の病氣かと云ふ事の診斷か醫師の方ても判然附かぬ場合が余程多う御座りましたからして近年に至りて大變増した樣で御座りますけれとも其實は矢張り昔しから此肺結核と云ふものは何處の國でも多かつた病氣で御座ります今申上けました樣に壯年の人が最も此病氣には感ずる併し獨り壯年の人のみならず小兒も肺結

核に罹り又老人も肺結核を感じます一般年齢には特別の差はないて御座りますけれとも多くは壯年に至りて發するものか多う御座りますから壯年の人か大變多い樣にある

今晩は此肺結核の事に就て御話しますが肺結核と云ふ病氣は人の身体及動物の身体に於きまして獨り肺ばかりではないです外の部分にも結核と云ふものかあるが何故結核と云ふ名を下したかならば一種の結核が組織の中に出來る其者を醫者の方でツベルケルと申しますそれは肺ばかりては御座りませず他の內臓の部分にも發する肝臓にも結核と云ふものもあり腎臓にもあり脾臓にもあり其他腸の結核と云ふものもある水脈線にも結核と云ふものがあるので多くの內臓諸器械に結核がある其中に尤も多いのが肺に尤も多いのです夫れで通例結核と云へは一般に肺結核とこう考ねて間違へのない位に肺に多い病氣で御座います以前は此肺結核は醫者の語て云ひますれは遺傳性の者であると云ふて居つた即其血族から引いて血族から血族に移る假令へは親から子にうつるとか或は一家の內に親が肺結核に罹りて居れは子が同じく親の結核を受けて罹る夫れか即ち遺傳性の病氣で肺結核と云ふのは遺傳性の病氣てあると云ふて居つたと云ふは先ッ一家內に獨り結核病がありますれは必ず其家ては一人で止まらず多くの人に發しますからして丁度血筋を引く樣に見えるてす夫れて御座りますから遺傳病と云ふて居つた併し此頃に至りましては遺傳病てなくして肺結核も一の傳染病と云ふ事が分つて來た今日ても或一部の學者はまだ之を遺傳性の者と考へて居る人がありますけれとも

夫等の頑固なる思想を懐かざる日新の醫學を研究し居る醫學社會にては肺結核を遺傳性の者と見做す人はなくして之れも一種の傳染病と云ふ事は醫學社會の一定の論となつたどうして肺結核か遺傳症のものでなくして一種の傳染病となつたかと云へば傳染病と云へは皆様も御存じの通り何にか原因がある一の原因と云へは活きて居る處のものがあつて其れが其傳染病の原因となる或は「コレラ」の原因となつて「コレラ」病を起し或は腸室扶斯の原因となつて腸室扶斯病を起すと云ふ様な工合て各々其病氣には固有のものがあつて夫が原因となりて其病氣を起す夫れて其原因となる處のものが何云ものが多かと云へば傳染病の原因となる物は何のやう種類のものが原因となるかど云ば今日先つ見出されてある處のものは即ちバクテリヤと云ふものにてバクテリヤと云ふは極く下等の植物に屬する所のもので植物の中でも最も下等の植物に屬する所のものでバクテリヤの中にも色々種類がござりますが其詳しいことは別に申しませぬが通例傳染病の原因となるの二三通り御座います第一最も多きものはバチルス、バチルスと云ふのは丁度棒のやうになつて居る所のもので眞つ直ぐに棒のやうになつて居のをバチルスと云ふ今一つはバクテリヤの中でミコロプスと云うて玉のやうになつて居る今一つはスピリルレン螺旋のやうに曲つて居る是は總てバクテリヤと云ふ總稱の下にある所の小分けの名でござりますけれども種類に依て形が違つて居る假令へは腸室扶斯の原因となる所のものは一種のバチルスにしてソレから怪我をして膿を醸す所の原因となる所のものはミコロコツ

クスと云ふ玉のやうなものであるそれから虎列剌の原因となるものは虎列剌バチルスと云ふやうなもので各々物に依て形が違つて居るそれが傳染病の原因となる所の一種類のもので即ちバクテリヤと云ふ植物に屬する所のものであるそれから或る傳染病にあつては植物性のバクテリヤでなくして動物性のもので所謂動物の方に屬する所のものが又原因となることがある其動物の種類も矢張下等の動物で漸く動物の部類に屬する丈のことで通常發育して居る所の大きい上等の動物の形を備へて居らぬものである其物をプトツオントと申して其動物性のものが原因となる所のものは例へば瘧のやうなものでマラリヤのやうなもので瘧を煩ひますと其病人の赤血球の中にはマラリヤのプラスモチエンと稱する寄生物が居るソレから痢病の原因となる所のものが矢張一種の動物性のものでアミーヨーベと云ふ動物性のものが原因となる是迄分つて居ります所の傳染病の原因は今申上げましたやうに植物性のものと動物性のものと傳染病に依つて違つて居る一の傳染病の原因となるものは他の傳染病の原因とはならぬ以前は斯う云ふ考を起して居つたものがある一のバクテリヤがあつて或る時には變じて虎列剌の原因となると云ふやうで同じ種類のバクテリヤが時とか或は氣候とか何とかの變化に依つて變じて色々の傳染病の原因となると云ふやうな想像を起した人がありましたけれども今日此黴菌學が進んで來まして段々と調べて見るとさうでない一の傳染病の原因となるものは其傳染病の原因となるのみで他の傳染病の原因となるものではない虎列剌の原因となる所のもの

は腸窒扶斯の原因となることは決してないさう云ふやうにして傳染病の原因と云ふものは此黴菌學の進歩するに從つて段々と分つて來ました素よりまた昔から知れ渉つて居る所の傳染病にして其原因の分らぬのも大分でござりますけれども是等はまだ我々の研究がそれ丈進んで居らぬからして後來は必らず分るやうになることは今日から豫言して宜しいと考へる譬へば疱瘡と云ふものは何千年以來全世界に廣がつて居りますけれども今日に至る迄原因は分らぬ疱瘡の原因を見出した人はない色々の説はありますけれども確かに醫學者仲間で信用を置く丈の原因と云ふものは見出さない今迄申述べたるは一般の傳染病の原因に就ての御話ですが其事は其位にして置きまして肺結核の事に就て御話しを致します

肺結核も今申上げました通りの傳染病にして他の傳染病の如く一の原因となるものがあるそれは則ち結核バチルスと云ふものでツベルケルバチルスと云ふ即ち結核の黴菌と云ふ結核の原因となるものは即ちバチルスと云ふものですから一の棒のやうになつて居ります是は今を離ること丁度十五年程前即ち千八百八十二年に明治十五年に獨逸のローベルトコッホと云ふ人が此結核のバチルスと云ふものを見出だしたそれまで結核と云ふものは傳染するものであらうと云ふ想像は起し居つた人が澤山學者の中にはあつたんです併し果して此物が結核の原因となるものと云ふことはどうしても分らなかつた併しコッホがバチルスを見出します前に結核が傳染すべきものと云ふことは既に其前に試驗をした人がある動物に試驗をした人がある即

ち獨逸のコーンハイムと云ふ人は既に其試驗をしたことがあるそれは其人間の肺結核に罹つたのでも動物の肺結核に罹つたのでも同じですから少しの小さい出來物を取つてさうしてそれを兎の眼の中に植えて置きますと兎の眼の中へ蔓つて發育して往くと云ふことがコッホの發見する前に試驗しましたが其蔓ると云ふこと丈は見出しましたけれどもどう云ふものが其中にあつて原因となつて蔓ると云ふことは分らなかつたコッホが發明したのは千八百八十二年其時に至て結核バチルスと云ふものがあつて其原因となると云ふことが分つて來た結核バチルスは今申上げましたやうに一の黴菌であつて結核のある所には必らずある肺の中にでも腸の出來物は外にも澤山ありますけれども其中にコッホの結核菌がない以上は結核でないと云ふても確かなんですそれから又結核黴菌丈けを取り置きましてさうして育て上げまして他の動物に植ゑ見ますと立派に他の動物が結核に罹ると云ふ事までも確に其試驗上で證據立てましたからして初めコッホが結核黴菌を見出しました時分は隨分それに反對する人もありましたけれども今日では結核の原因がコッホの結核黴菌でないと云ふ人は一人としてない結核の黴菌と云ふものが結核の原因となる以上は結核と云ふものも一の傳染病たるとは間違ないと云ふことも是も極つた譯でござります醫師が肺病に罹つて居る病人を診斷をしまして是れが果して結核か結核性のものであるか結核性のものでないかと云ふことの診斷を早く付けると云ふことは是は大變必要なことであるなぜかならは總ての病氣がさうでござりますけれども殊に此

肺結核の如きものは極く初期の中でござりますればば今日では治療が屆きます併し段々と進んで來て肺の中に穴が明いて來ると云ふやうなことにあつて來るとさうすれば如何なる明法があつても到底防くことは出來ませぬけれども初期の時でございますれば（総ての傳染病がさうでござりますけれども）殊に肺病などは最も初期に是は療養せねばならぬ初期に診斷を下して鑑定を付けると云ふとは醫師の名拙によるとである昔は肺病には胸を叩いて見或は聞いて見て音が違ふ所で是れは肺結核ではないといふ診斷を下して居りましたけれどもそれは或る塲合余程進んだときは立派にそれで診斷は下されますけれども極く初期の時には胸を叩きて聞いて見て極く怪しい事疑はしい事があつて診斷が付かぬことがあるさう云ふときに確かに診斷を下し即ち此結核の黴菌を見出すのが最も必要なんです肺結核の病人の中にある所の結核黴菌を見出すのにはどうしてするかと言へは則ち其病人の吐いたる所の痰の中に結核性のものでございますれば結核菌が大概あるのでございます稀れにはどうしても見出せぬとがござりますけれども先づ十中の九までは必らず見出せると云ふて宜しい痰の中には肺結核の病人の痰でも其外の病人の痰の中にでも色々の黴菌が居る此黴菌と云ふものは空氣の中にも居り水の中にも居るものでござりますから痰の中にも外の黴菌が居ると云ふことは當り前の話併し此肺結核の黴菌と云ふものは一種特異の性質を備へて居るものですから之を見ることは極く見易い総て我々が黴菌即ちバクテリヤを見ますのは唯肉眼では素より見えぬこと又大きい顯微

鏡で見ましても唯見た所では餘程馴れた目でなければ見られない併しそれをもう少し見易くして見る法があるそれは物を染めて見るです染めて見ますと総ての黴菌が染まつて即ちアニリン色素と云ふもので染めますと青くも赤くも色々染まりますが多くの黴菌中で結核の黴菌と云ふものは一定の染方でなければ染まらないどの色素でも染まりますけれども一定の染まり方がある其事はコッホの染方と云ふものがありますがそれは専門に渉りますから今日申しませぬが其染め方でござりますと痰の中にあるバクテリヤは染まりませぬで獨り結核の黴菌が染まる法がありますそれで染めて顯微鏡で見ますれば忽ち見ゆる見ゆるのみならず直ちに是は結核の黴菌であるか黴菌でないかと云ふことの斷定を下すことも極く易い今日肺の結核患者の

疑ひのある病人を診斷しますときには必らず今の胸を叩き或は聞きて理學的診斷の外に顯微鏡的の診斷をせねば決して十分なる診斷と云ふものは出來ないコッホが三四年前見出しました所の結核を療治致します所の藥ッベルクリン之を注射致しますると病人が果して結核であるかないかと云ふことも慥に分り一は顯微鏡で見出さなくして肺結核と云ふ疑のある所の病人であるならば其ッベルクリンを注射して見ますると大變熱を發する健康の少しも結核の患のない人でござりますれば何んともないのが此患がござりますれば身体のどの部分にでも少しでもござりますれば一定の分量を注射しまするど必らず結核か結核でないかと云ふてとが分る今日ではそれ丈の完全なる所の診斷法が結核病に就いては備りて居りますから結核病を診

斷するのには決して誤らず間違なき診斷が出來る樣にあつて居ります　（以下次號）

◉生理學講義

循環器系統　（第二回）

醫學士　坪井次郎君演說

人の身体中には常に血液が運動して居りますが此血液は脉管と云ふ管の中にあります、丁度之は飲用水が水道の樋の中を流れて居るのと同じことであります、抑も血液は自然に身体中を動くものにては之れ無く必らず之を動かすものか無ければありません、血液の運動を誘起するものは心臓であります心臓は一個の筋より成る嚢にて脉管と連絡して居ります、脉管と心臓の内容に常に血液を以て充されてあります、今心臓の筋が収縮しますれば其中にある血液は壓迫せられ爲に血液は心臓と連絡する脉管の方へ輸り出されます、之に反して其収縮が止みますれば心臓の筋が緩みまして脉管より血液を再び受くる譯であります、之より以下心臓と脉管との連絡脉管の身体中に分布する狀態及び血液の心臓及び脉管内を運動する工合を述ぶるでありましやう之は言語に於て述べるよりも左に擧げたる圖を見る方が早分りであります、心臓の内部は縱橫の中隔により四個の室に分かたれてあります、右の中上部に位する二ッを上房と云ひ（左上房、右上房）下部に位する二ッを心室と云ます（左室右室）此上房及び心室は夫々大なる脉管と連絡して居ります、今右室より說明を初めまするに、此右室より上方に向ひ一の大なる脉管が出て居ります、之を脉動脉と

云、右室の筋質が収縮して其内腔にある血液を壓迫致しますれば其血液は肺動脈内に驅逐せられます、肺動脈の末枝は肺臓に分布して居まして其質質中に於て段々と枝葉を生じ遂には非常に細き管となります、名けて肺臓の毛細管と申します血液の初め右室にあるものは暗紅色にて炭酸に富み酸素に乏しくなりますが肺臓の毛細管を通過する間に其色は急に鮮紅色となり炭酸に乏しく酸素に富んで來ます、右の如く肺臓の毛細管の内にて血液が變化する理由は呼吸の作用によります即ち血液中に潴積せられたる炭酸瓦斯は肺臓内の空氣中に移行し而して此炭酸に富める空氣は呼氣と共に外圍に驅逐せられます、次に來たる吸氣の働により酸素に富みたる空氣を肺臓内に吸引すれば此酸素は肺臓毛細管の血液の内に吸収せられます此血液と呼吸との關係は呼吸器篇に於て精しく述べます

何に致せ血液が肺臓の毛細管を通過するに當り炭酸を排除し酸素を吸収し合せて暗紅色より鮮紅色となるは慥なる事實であります、此事は生理學中でも殊に必要の件であります

右鮮紅色にして酸素に富む所の血液を含む毛細管は再び漸々大き脈管に集合し終に四本の肺臓脈となり心臓左上房に入ります、此左上房に入りたる血液は前にも述べたる如く鮮紅色にして酸素に富みたるものであります、偖左上房は心臓左室と交通して居りますから(左上房と左室の間には孔があります)今左上房が収縮するときは其内にある血液は必ず、左室へ向て注入せらるゝに相違ありません、左室が其内腔に充分血液を潴ふるときは今度は左室が収縮致して其内腔の血液を壓迫致

します、此時血液は何處へ驅逐せられませうか（決して左上房の方へは歸流致しませぬ）、心臓左室は大動脈とて一本の最も大なる脈管と連絡して居りますから左室か収縮致しますれば其中にある血液は必ず此大動脈の方へ向て流るゝに相違ありません、大動脈は段々と枝葉を生じ大小の動脈となり、全身の至る所に分布致しますが遂に毛細管となります、此毛細管の部に於きまして血液は全身の組織に營養分と酸素を與へ以て組織を養ひ且其酸化作用を起させます、亦組織の方よりは種々の老廢物と炭酸を毛細管の血液に與へます、之よりして考へて見ますれば躯体の毛細管の血液は組織と互に其成分を交換するに相違ありません、[illegible]

今少々前に述たる事に遡て考へて見ますれば彼[illegible]肺臓の毛細管の部より肺靜脈、心臓左上房、左室、大動脈及其枝葉併に毛細管の初めの部までの處に含まれて居る血液は鮮紅色にして酸素に富んで居ります、如斯鮮紅色の血液を名けて動脈血と云ます、然るに今躯体の毛細管の處に於て血液が酸素を組織に與へ組織よりは炭酸を取りますから全く茲に其色が一變致しまして之より先きは血液の色が暗紅色となり酸素に乏しく炭酸に富んで居ります、如斯血液を名けて靜脈血と申します、之よりして見ますれば躯体の毛細管の中に於きまして急に動脈血が靜脈血に變化するのであります

偖此靜脈血は之より如何なる脈管内を通過するものなりやと問ふに躯体の毛細管は漸々再ひ太き靜脈幹に集合し遂に大靜脈となり心臓右上房と連[illegible]絡致します、夫れ故に毛細管の部に於て動脈血より變化し生じたる靜脈血は毛細管より段々太き脈

管内を通り次に大靜脈内を通過して遂に心臟右上房に注ぎます此右上房は心臟右室と一の孔に據て連絡して居りますから今右上房が収縮致せば其中の血液は壓迫せられ必ずや右室内へ來るに相違ありません、次に右室が収縮致せは其中の血液は肺動脈内へ追ひ出されまして彼肺臟の毛細管の部へ達します之より先きの事は此話を初むるとき申したる所にて即ち右室の部より説明を初めたる義であります、玆に於て初めて血液の循環が一回成就したる譯であります、玆に一寸靜脈血の所在を述ぶるを忘れてはなりません、靜脈血は前に述たる如く軀体の毛細管内に初まり大靜脈、心臟右上房、右室、肺動脈及肺臟毛細管の初部の内容を充たして居ります、

右述ましたる血液循環なるものは人類は勿論高等動物の生活には須臾も欠く可らざる最緊要の働であります、夫れ故に人が命を稟て此世に生れてより死するまで晝でも夜でも寢ても起ても血液循環の止む暇はありません

血液の循環とは血液の脈管内を運動する狀態を指すものであります抑も此血液の運動は何に據て起るものなりやと問へば心臟の筋質が収縮して其内の血液を壓迫して之を脈管内へ逬出せしむるに依ります、即ち心臟は血液循環を誘起せしむる中樞器であります、以下心臟の生理を特別に述べ様と思ひます

心臟は人身胸腔内にある臟器でありまして殆んど拳大の大さを有して居ります、心臟の位置は胸部の中央より稍や左の方へ寄て居ります、心臟の上房及心室は交代して収縮し或は開張致しますが初

め左右の上房が同時に收縮し次に右室及左室が同時に收縮します、然し左右心室の收縮が初まる時は已に両上房は開張を始めて居ります、左右兩室が收縮し終りたる後は心臟全体が暫時休息して少しも運動致しません之は大に注意す可き件で身体中最も能く働く心臟と雖も一定の休息時を要する譯でありますす然し之は僅なる時間にて直に上房の收縮が始まります、上房の收縮中は心室は開張期にあります

上房が開張する間には靜脈より血液が其中に注入致します、次に上房が收縮するときは開張期にある心室内へ血液が流れ込みます、心臟が收縮すれは其内の血液を動脈内へ流入せしめます各心室内へ一回に流入する血液の量は丁度一合程であります、元來心室の收縮は幾度位のものなりやと問に

平均一分時間に七十二回であります、故に一時間には四千三百廿一回、一晝夜即ち廿四時間には十萬〇三千六百八十回であります、之よりして計算して見ますれは各心室は一晝夜の間に一合の血液を十万百餘回丈け迸出する力を以て居ります、左右兩室を合併致しますれは二十萬〇七千三百六十回丈け一合の血液を驅逐せねはなりません實に莫大なる力と云はなければなりません、然るに通常人は心臟が如斯非常の力を有することを知らすに居りますが心臟の生活中須臾も欠く可らさることは之れにても分明でありませう、(心室が收縮する時は其下部の心尖なる部位が位置を前方に變し前胸壁に衝突します、之は胸部左側に手を觸れて見ますれは其衝突を窺ふことが出來ます)心臟の運動は大に神系の司配を受けて居ります人が驚ひ

たり恐れたりするときは心動が急速になります、之は心臓の神經か脳から來て居るからでありまず偖之より心臓左室か收縮して其血液か大動脈内へ迸出する事に就て述べませう、大動脈を始めとして全身の動脈及毛細管の壁は彈力を有して居りますか故に今心臓左室か收縮して血液か非常の勢にて動脈の内へ迸るときは必す動脈か其前よりも擴張致します此際指を表在の動脈に觸れて見ますれは動脈か擴張せらるゝ毎に指に衝突を覺へます之を脈搏と云ひます脈は心臓の左室が收縮して動脈か擴張する毎に起るものであります、従て脈搏の數は心臓左室收縮の數は同し事であります、即ち脈搏は一分時に平均七十二回觸るゝものでありますか醫家か病人を診察するとき必す脈を觸れますか之は身体中最も緊要なる心臓の様子を窺はんか為めてあります

人か誤て怪我をして動脈を傷る時は傷口より鮮紅色の動脈血が迸ります、其勢は餘程强きものでありまして大なる動脈か破れたるときは血液か數尺の高さまて達する事かあります、且其出血は心臓の收縮毎に其勢を増すものであります、(血か脈を搏つと云ひます)、動脈よりの出血は右の如き勢力を有するものでありますから數分時を費やさすしての全身血液の多分が溢出して為に生命を絶つ事か往々あります動脈の出血程恐しきものはありません、動脈出血に際し之を止むる方法は誰にても必す心得て居らねはなりません、動脈止血法を知らぬか為に人を見殺しにする事かあります、此止血法は別に六ケ敷き事はありません、例へは手足の或る部位に出血を認めたらば猶豫せす

其傷口の上部(即ち傷口より心臟に近き部位)を手拭なり、紐なり手近にある物にて堅く結ぶにあります、然るときは動脈が外より壓迫せられ閉鎖せられますから出血は止まります、傍ら傷口をも同じく手近にある手拭「ハンカチーフ」等を以て壓迫するを宜しと致します、兎も角も動脈出血があつたらば右の如く急場の防ぎを爲さねばなりません、動脈出血を見て人を速らせ醫者を聘するも其來診するまでには生命が既に絕ゆることがあります、故に動脈出血を認めたらば直に前文擧たる止血法を行ひ夫れと同時に醫者を招き相當の治療を受けねばなりません、動脈が損傷を受けず唯毛細管のみが傷けらるゝ時は出血の勢は強くありませんで傷口より血液が少しづゝ溢出します彼口內の齒齦よりする出血の如きが之に屬します、毛細管よりの出血ば通例自然に止まりますから恐るゝに足りません、靜脈が傷を受けても血液は強く迸ることはありません、其色は暗紅色であります、

之より一寸脈管と神經作用との關係を述べ樣と思ひます、心臟が神經と關係ある如く全身の脈管も同しく神經の主配を受けて居ります脈管に働く神經が二た通りあります、其一は脈管を收縮せしむるもの其二は脈管を開張せしむるものであります、脈管の縮張が神經と關係ある可き事は外皮に於て宜く解かります、人が恥ち或は怒るときは直ちに顏面の脈管が擴張して多量の血液が此部に注ぎ顏面が潮紅致します、之に反して人が恐れ或は驚くときは脈管が收縮して血液に乏しくあります顏面が蒼白に變します、又皮膚に冷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

水を注ぎ膚皮の脉管が収縮し或は温浴に入りたる後皮膚の脉管が擴張するも皆神經の働きによるものであります。

(以下次號)

衛生叢談

◉北里博士の血精療法

同博士は近來コレラ病に血精療法を施すことを發明し今尚研究中なりとの事なるが其成績を聞くに同院に入院の虎列刺患者にして入院後間もなく死亡する者の外は如何なる重症の者も一回該血精を注射するときは數時間にして忽ち其効を奏し吐寫煩悶を止めて輕快となり第二回の注射に於て尿利を促し第三回の注射にて患者漸次に快復期に趣く云ふ已に二十人の患者に之を施したるに症狀險惡なりしもの一名死亡したる迄にて餘は皆輕快内治せりと云ふ凡そ病毒の恐るべきものコレヲより慘なるはなし世界各國の人民之が爲めに生命を奪はるもの年々十數万人に止り今年我國に於ても今や三万以上に達せり此博士療法不日確定したる上は世界の醫學會社に一大光明を放つや決して疑ふべからざるなり吾れ〳〵は一日も早く此一大發明の公にせらるゝを冀望するものなり今同博士の血精治療と普通療法との比較は左の如しといふ此成績は廣尾避病院開院以來八月七日より同二十四日までの總計とす即ち

治療種別	治療患者數	全治退院	死亡	快復在患者	現在患者
血精治療	三四	五	四	一五	二五
普通治療	二一	一	一五	二	五
合計	五五	六	一九	一七	三〇

以上の表に依る時は從來の普通治療に比して同博士が發明に係る新治療法は其成績數倍の好果を見るものと云ふべし

◉全國虎列刺病患者

初發より去月廿六日までの各地方虎列刺患者は左表の如く既に三万人を越えたり

廳府縣名	患者	死亡
北海道	八人	一人
東京府	千三百四十二人	八百五十八人
京都府	千三百三十二人	九百八十六人
大阪府	五千五百五十人	三千七百二十九人
神奈川縣	五百七十一人	三百三十八人
兵庫縣	二千七百五十八人	千九百七十六人
長崎縣	千三百三十八人	八百八十九人
新潟縣	五十七人	三十二人
埼玉縣	百二十八人	九十四人
千葉縣	四百七十九人	三百四十二人
茨城縣	六百四十五人	四百三十三人
群馬縣	十八人	八人
栃木縣	百八十五人	百十四人
奈良縣	四百七十二人	三百二十九人
三重縣	十四人	八人
愛知縣	八十人	五十四人
靜岡縣	百六十九人	九十八人
山梨縣	二十四人	十六人
滋賀縣	百九十人	百四十一人
岐阜縣	三十九人	二十六人
長野縣	十人	六人
宮城縣	四百二十六人	二百六十九人
福島縣	百五十二人	八十四人
巖手縣	五人	三人
青森縣	七人	三人
山形縣	二百〇三人	百三十五人
福井縣	六十五人	三十八人
石川縣	四十人	二十二人
富山縣	四十人	二十七人
鳥取縣	七百〇四人	四百六十七人
島根縣	三百八十五人	二百三十七人

岡山縣	千九百四十九人	千二百六十九人
廣島縣	二千九百八十三人	二千百三十六人
山口縣	千六百六十六人	千百三十七人
和歌山縣	三百四十二人	二百五十三人
德島縣	二百三十七人	百十五人
香川縣	千〇五十五人	五百六十八人
愛媛縣	八百四十六人	五百八十二人
高知縣	四百十九人	二百八十三人
福岡縣	千四百八十人	八百七十四人
大分縣	五百三十二人	三百〇四人
佐賀縣	百九十四人	百二十四人
熊本縣	三百七十五人	百四十五人
宮崎縣	六十一人	三十人
鹿兒島縣	百二十五人	七十一人
沖繩縣	十三人	五人
似島陸軍撿疫所	五百二十七人	二百六十七人
彥嶋陸軍撿疫所	二百八十七人	百八十七人
櫻島陸軍撿疫所	百九十七人	六十人

合計　患者　三万〇七百二十四人

内　死亡　二万〇百七十三人

●十九年と今年の虎列剌比較

彼此の患者表を對照するに發生の時期より流行の盛衰度合殆んど同一轍にて十九年の時は頂上八月七日にて新患者數一日百九十八人今年も是迄の處頂上八月七日にて患者數百八十六名其間僅に四名の差にて而も其月日の相同じきも不思議なり果して斯の如くあれば今年も最早下り阪の筈なれど今年の虎列拉はナカ〳〵油斷あらず但喜ぶべきは死亡表を十九年に比して今年の方ズット少く十九年の頂上は六月六日六百五十六人にて今年の頂上は八月十日百十五人なるが此は幾らか公衆の衛生に心懸くると醫術の進歩とに因るあらんと云へり

●飲食物の心得

某國手の談に目下惡疫の流行は飲食物の誘因によ

る事少なからず尤も多飲多食は忌むべきが知らず識らずの間に(不適合)喰合せの物を食し爲に病氣を引起す事多ければ時候柄の物のみを心得置きて是を避くる事肝要なりとて數へられたるを聞くに左の如しと云ふ參考の爲め掲ぐ

西瓜と熊膽　心太と生玉子
鰻と梅の實　牛肉と蜜柑
鮨と唐瓜　鰡と眞瓜
草餅と梅の實　黒砂糖と梅の實
鰯と新菊

◉小兒授乳の程度

小兒の哺乳は恰も時計の如く規則立ちて授乳せさるべからず乳汁の充分出るまでは四時間毎に一回其後一ヶ月の間は晝は一時間半二時間毎に夜は四時間毎に一回を限り授くべし晝間は授乳の時間來ればたとひ眠れるも覺まし與ふるをよしとすされとも夜間は決して其眠りを覺ますことなかれ大抵嬰乳は夜間六時間續け眠るものなり熟睡は少しも害なきものなり凡べて嬰兒は忽ちにして能く規則に慣るゝものにして小兒の胃も大人の胃の如く食間は休まざるべからず然るに只徒に小兒が啼けば直ちに授乳するは宜しからず宜しく他の事情によりて啼くものなることを察すべし假へに裙の取換を望む時もあるべく又は腹部の疼痛によることもあるべし敢て餓を覺えたる時のみにあらざるあり而して授乳は最初より各乳房をかわる〳〵飲ましむるを必要とす是等は誰も熟知せる事柄なれども兎角時間を定めて哺乳せしむることは猥りに兒の愛に溺れて守ることを得ざるもの多し乍去是等は却て其兒を傷ふに至るものあれば宜しく日本の

慣習を矯正すべきなり

◉府下の虎列剌患者

本月三日の正午より同四日正午迄の府下虎列剌新患者は本所區男四人、日本橋區男五人、女二人、芝區男一人、女一人、麹町區男一人、近衛歩兵第二聯隊兵卒四人、赤坂區女一人、麻布區男二人、深川區男二人、女三人、牛込區男一人、女一人、神田區男二人、女一人、京橋區男一人、淺草區女三人下谷區一人、荏原郡女一人、南多摩郡男一人北豊島郡女一人、合計四十二人、内男四人、女四人死亡他は送院治療中なりといふ

婦人衛生會々告

本會常會の義八月及九月は炎暑酷烈の故を以て例により休會致し候講師坪井醫學士には先般京都へ出張せられ候へども次會よりは尚續いて講演せられ候筈にて同講演も本誌へ連載可致候也此段御了承被下度候也

大日本婦人衛生會

寄送書目

藥學士兒島高里君編纂
必携 袖珍衛生綱鑑　全一册　會員兒島悦子より

廣告

八月より九月に至る入退會者は左の如し
◉會員三浦敎子の紹介により
麹町區富士見町一丁目一番地
通常會員　早川春子

●評議員岡田德子の紹介により
日本赤十字社病院内通常會員　鈴木かす子
仝　通常會員　大西千代子
仝　通常會員　在田のぶ子
●會員淺井梅香子の紹介により
日本赤十字社病院　土田すゑ子
仝　橋本治子
仝　金田孝子
●事務所へ申込により
神田錦町三丁目一番地看護婦會　中山ふさ子
●會員田中こう子の紹介により
牛込矢來町八番地
仝　通常會員　小柳安子
仝　仝　小柳美代野子
仝　仝　小柳睦子

轉居

四谷區大番町へ　牧野しん子
神田駿河台鈴木町二番地へ　高田耕安君
仝　高田輝子
本所區横網町二丁目八番地へ　橋口喜代子
神奈川縣三浦郡豊島村中里稻荷谷戸　武富すみ子
神田區西紅梅町河岸十二號　高橋清子
神奈川縣下東浦賀町字大ヶ谷七十番地へ　田尻知子
大分縣宇佐郡長洲町字金屋百四十四番地へ　澤豊子
廣嶋縣大手町八丁目二百四十三番地へ　早川倉子
相州長浦官舍甲二十三號へ　内田芳子

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會するとを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雑誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とするとを有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰舉し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托するとあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雑務を掌る

但幹事の分課を設けて第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くとあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雑誌に掲載し每月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむるとを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず

但會員に縁故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條 會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條 會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條 會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條 入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條 每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し

且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すを得

第廿四條 三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條 規則の範圍内に於て役員の評議を以て會細則を設くることを得

第廿六條 各地方にて發起者十八以上ある者は支を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條 本會の集會場は時々報知する者とす

（以下次號）

看護婦派遣

御申込次第何時にても早速派遣可仕候

東京市本郷區春木町二丁目

四十二番地

中立看護婦會

明治廿八年九月四日印刷

明治廿八年九月六日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地
大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地
田中德三郎

印刷者 同 神田區小柳町十三番地
小高良造

印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地
廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可 第一金曜日發行 （定價金拾錢）